

★排泄物等の片付けのポイント★

- ・嘔吐物，排泄物の片付けは，高齢者施設でも日常的な作業と思います。しかし，嘔吐物や排泄物には様々な病原体が潜んでいます。例え健康な入居者であっても，糞便中には薬剤耐性菌を含んでいることが多くあります。したがって本作業は，日常介助の中では，危険な作業の一つであり，十分な注意のもと実施する必要があります。
- ・排泄物等の片付けの際には，適切な个人防护具を着用する必要があります。个人防护具は，スタッフの安全を守るだけでなく，入居者を感染症から守るために重要です。
- ・安全に排泄物等が片付けられるように，日頃から訓練を行いましょう。施設内で，誰が片付けを実施するのか，あらかじめ決めておくとスムーズに行えます。

■ この作業に必要な个人防护具 ■



使い捨て手袋
サージカルマスク
フェイスシールド（ゴーグル）
使い捨てビニルエプロン
または
使い捨て袖付きガウン

※ノロウイルス胃腸炎を疑う嘔吐物の処理の際には，
長靴またはシューズカバーがあると便利です。

嘔吐物・排泄物の片付けは、
病原体が伝播する可能性のある
必要なポイントなので、
感染対策に十分注意して下さい！



■ 施設全体の管理 ■

- ◆ 保菌する薬剤耐性菌や、感染症の有無に関わらず、誰の嘔吐物・排泄物も同じように安全に片付けるように、スタッフの教育が必要です。ノロウイルス胃腸炎と判明している場合以外のケースでは、管理がずさんになっていないでしょうか。実施状況を確認して下さい。 **守る！**
- ◆ スタッフが安全に作業できるように、必要な个人防护具（手袋・サージカルマスク・使い捨てビニルエプロン・フェイスシールドまたはゴーグル）を準備しましょう。 **守る！**
- ◆ 片付け後の最終的な消毒を行うために、専用の塩素系消毒製品などが準備できると便利です。 **目標**
- ◆ 入居者の嘔吐物・排泄物の片付けを行ったスタッフは、石けんによる手洗いを入念に行ってから次の業務にうつりましょう。 **守る！**

■ 嘔吐物・下痢便等の片付け時の注意点 ■

- ◆ 排泄物等の周囲から他の入居者を遠ざけましょう。 **守る！**
- ◆ 窓などを開けて換気しながら作業しましょう。作業者は風上に位置して作業します。 **守る！**
- ◆ 嘔吐や失禁をした入居者の介助・片付けを行うスタッフは、使い捨て手袋・使い捨てビニルエプロン（可能なら使い捨て袖付きガウン）・サージカルマスク・（可能であればフェイスシールドまたはゴーグル：新型コロナウイルス感染症対応時には必須）を着用し、作業します。 **守る！**
 - ※个人防护具を着用していないスタッフは、手出ししないように気を付けましょう。 **守る！**
 - ※汚染された手袋で、周囲の環境や物品に触れて汚染を拡げないように注意しましょう。 **守る！**
 - ※次亜塩素酸ナトリウムは目に入ると危険であるので、その点からも目の保護が望ましいです。
- ◆ 手袋を2重にしておく、その後の作業がしやすいです。
- ◆ 嘔吐物で汚染した可能性のある食器は、ビニル袋で密封してから、施設で決められた場所へ運び洗浄しましょう。 **守る！**
- ◆ 嘔吐物が飛んで入った可能性がある食物は、廃棄します。 **守る！**
- ◆ 排泄物等が付着した衣服・リネン類は、脱がせた後にビニル袋で密閉して施設で決められた場所へ運びましょう。 **守る！**
- ◆ 排泄物等で汚れてしまった入居者についても、排泄物等が付着したと考えられる部位の清拭を行いましょう。清拭方法は通常通りで良いですが、清拭したタオルはビニル袋で密閉して施設で決められた場所へ運びましょう。 **守る！**
- ◆ 嘔吐の場合、思っているよりも汚染範囲が広いです（約2-3メートル）。テーブルの裏、脚、手すりなど、嘔吐が発生した場所の周囲に処置すべき部位がないか、よく気を配りましょう。 **守る！**

■ 嘔吐物・下痢便等の処理の手順 ■

<<準備>>

- ◆突然の嘔吐・下痢では、ノロウイルス胃腸炎などの感染症が原因の可能性がありますので、より嚴重に注意して作業を実施しましょう。 **守る!**

★ 準備する物品 ★

1. 個人防護具：

手袋（2重にして作業すると便利）、サージカルマスク、使い捨てビニルエプロン（可能であれば袖付きガウンが望ましい）、フェイスシールドまたはゴーグル、シューズカバー（または長靴）

2. 拭き取るもの（ペーパータオル、新聞紙、捨ててよい布など）

3. 塩素系消毒剤：作成方法は以下参照（濃度が変わるため、作り置きはしない）

4. バケツやペットボトルなど

5. ゴミ袋（3枚以上）

※これらの物品は、常に「嘔吐物処理セット」などとして準備しておく便利です。 **目標**

※置き場を決めておき全スタッフがすぐにわかるようにしておきましょう。 **守る!**

※塩素系消毒剤は使用を誤ると大変危険です。特に入居者の安全を確保して、適切に管理しましょう。 **守る!**

※塩素系消毒剤は水でのみ希釈し、他の洗剤等とは決して混ぜてはいけません。 **ダメ!**

<<実施>>

- 1 個人防護具を着用します。（髪を束ね、腕時計や指輪は外しておきましょう）

- 2 最初に排泄物等を覆います。ペーパータオル・捨てて良いタオルなどを使用します。

※新聞紙は安価ですが、細かい残渣を集めるのが比較的大変ですので、ペーパータオル等がおすすめです。<上記の覆いの上から、0.05-0.1%（500-1,000 ppm）程度の、次亜塩素酸ナトリウム液を、はねないようにそっとかける方法もあります。新型コロナウイルス感染症や、ノロウイルス胃腸炎を疑う場合には、0.1%（1,000 ppm）が推奨されています。>

※次亜塩素酸ナトリウム液をかけて、10分程度放置するやり方もありますが、床の漂白、他の入居者が寄って来る、臭気による不快感などの問題などがあるので、本手順書ですぐに次の作業に移ることを推奨します。個人防護具を適切に着用し、排泄物等が飛び散らないようにすれば、作業も不安に思う必要はありません。

※塩素系消毒剤は、濃度が高いと刺激性・腐食性・危険性などのデメリットも増すため、濃ければ良い、とも一概に言えない（適切な濃度を守ることが重要です）ため注意しましょう。

- ③ 排泄物等が飛び散らないように、そっと外側から内側に向かって排泄物等と一緒にペーパー等を集めていきましょう。
- ④ 集めたペーパー等をゴミ袋に入れます。排泄物等が残っている時には、新しいペーパー等で再度集めてゴミ袋に入れましょう。
- ⑤ (2重手袋の) 外側の手袋を外し、ゴミ袋に捨てます。上記の次亜塩素酸ナトリウムを浸したペーパー等で、排泄物等が落ちた中心部から半径2メートルの範囲を外側から内側に拭いていきます。途中、次亜塩素酸ナトリウムを浸したペーパー等を交換しながら、中心までしっかり拭き消毒します。可能であれば、2回拭き消毒を繰り返しましょう。ペーパー等はゴミ袋に入れます。
- ⑥ 排泄物・ペーパー等の入ったゴミ袋の口を縛り、新しいごみ袋に入れ(2重にして)口を縛ります。
- ⑦ (シューズカバー) > 内側の手袋 > ビニルエプロン(ガウン)の順で外し、3枚目のごみ袋に捨てます。その後、石けんと流水で入念に手洗いを行います。

※長靴を利用する場合、床にあらかじめ次亜塩素酸ナトリウムを浸したペーパー等を置いておき、その上に乗って底をこすり付けてから自分の靴と履き替える方法もあります。
- ⑧ フェイスシールド(ゴーグル)、マスクを外し、3枚目のごみ袋に捨て口を縛り、もう一度手洗いを行います。
- ⑨ 再度新しい手袋を着用して、上記で発生したゴミ袋を施設の指定の場所に運びます。(感染性廃棄物となります)
- ⑩ 15分程おいて、臭気や漂白が気になる場合には、手袋を着用して軽く水拭きを行いましょう。
- ⑪ 最後にもう一度、手指衛生を実施しましょう。

■ 固形糞便・尿等の片付け ■

- ◆健康と思われる入居者の糞便にも、薬剤耐性菌などが含まれていることが少なくありません。尿も同様です。「感染症じゃないから大丈夫」と思わずに、注意して作業を行いましょう。 **守る!**
- ◆排泄物の周囲から他の入居者を遠ざけます。 **守る!**
- ◆作業するスタッフは、个人防护具を着用します。(手袋・使い捨てビニルエプロン・サージカルマスク・可能であればゴーグルやフェイスシールド)。最低でも手袋を着用しまししょう。 **守る!**

※汚染された手袋で、周囲の環境や物品に触れて汚染を拡げないように注意しまししょう。 **守る!**
- ◆排泄物等が付着した衣服・リネン類は、ビニル袋で密閉して施設で決められた場所へ運びましよう。 **守る!**
- ◆排泄物等で汚れてしまった入居者についても、汚染物等が付着したと考えられる部位の清拭を行いましよう。清拭方法は通常通りで良いですが、清拭したタオルはビニル袋で密閉して施設で決められた場所へ運びましよう。 **守る!**

- ◆ 固形物を除いた後、汚染部位を中性洗剤で濡らしたペーパータオル等でよく拭き取りましょう。**守る!**
- ◆ 拭き取った後、床やベッド柵など消毒できる場所は、0.1%（1,000 ppm）の次亜塩素酸ナトリウムで消毒した後、軽く水拭きしましょう。**目標**
- ◆ 排泄物等と片付けに使用したペーパー等はビニル袋で密閉し、感染性廃棄物とするか、オムツ同様に処理します。
- ◆ 作業後は、手袋>ビニルエプロンの順で外し、石けんと流水で手洗いを行います。**守る!**
- ◆ 最後にマスク（とフェイスシールド）を外し、手指消毒用アルコールによる手指衛生を実施しましょう。**守る!**

★ ベッドで入居者の便汚染が発生したときの手順 ★

1. 手指衛生を実施します。
2. 個人防護具を着用します。手袋，サージカルマスク，使い捨てビニルエプロン，（可能であればフェイスシールド・ゴーグルも）
3. 大き目のビニル袋・ゴミ袋・清拭タオル（ウェットペーパー）・ペーパータオル・洗剤を含んだ布またはペーパー・0.1%（1,000 ppm）次亜塩素酸ナトリウムを含んだペーパー等・新しいリネン・手袋を持参して入居者の所へ行きます。
4. 入居者へ声がけし，便の付着した衣服を脱がせ，ビニル袋に入れます。
5. 体や手に付着した便をペーパータオル等で大まかに除いた後，清拭します。
※スタッフが2人いれば，この段階で補助のスタッフが着衣させましょう。
6. シーツ等が汚染されていれば，ビニル袋に入れます。
7. ベッド柵など，周囲にも汚染があれば，ペーパータオル等で取り除いた後，洗剤を含んだ布またはペーパーで手早く拭き清掃します。
8. 手袋を交換し，着衣させます。シーツ等を除去した場合には，新しいシーツ等を配置します。
9. 入居者の手が汚染されていた場合，石けんで手洗いを介助するか，手指消毒用アルコールを用いて手指衛生を介助します。
10. ベッド柵など，周囲が汚染されていた場所があれば，0.1%（1,000 ppm）次亜塩素酸ナトリウムを含んだペーパー等で2回拭き消毒し，最後に軽く水拭きをします。
11. 汚染衣類・シーツ等を入れた袋とゴミ袋を密閉し，施設所定の場所へ運搬します。
12. 手袋>手指衛生>エプロン>手指衛生>マスクの順に個人防護具を外し，最後に石けんによる手洗いをし，仕上げに手指消毒用アルコールで手指衛生を実施します。

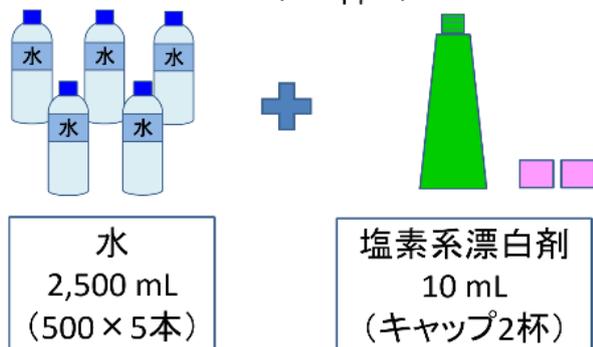
■ 排泄物等が付着した物品の処理 ■

- ◆ 排泄物等が付着した物品は、消毒処理前に、汚物室や浴室等で大まかに汚れを落としましょう。 **目標**
- ◆ 排泄物等の処理を行った後の浴室等は、換気を十分に行いながら、排泄物等が付着した可能性のある部位に、0.05-0.1% (500-1,000 ppm) 程度の次亜塩素酸ナトリウムを10分程度接触させ、十分に洗い流しましょう。 **目標**
- ◆ スタッフは、個人防護具（使い捨て手袋・サージカルマスク・使い捨てビニルエプロン・フェイスシールドまたはゴーグル）を着用します。 **守る!**

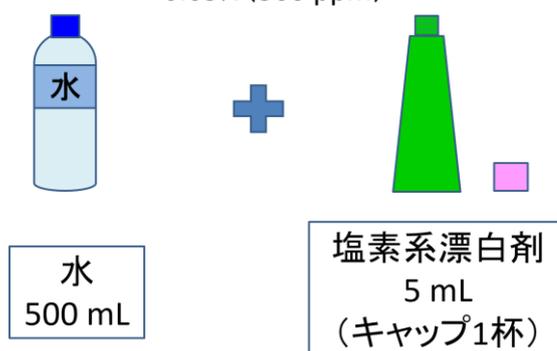
| 物品 | 推奨される処理 | 問題点など |
|---------------------------|---|--|
| 食器 | 80℃10分（または85℃1分）の熱水消毒 または0.1%（1,000 ppm）濃度の次亜塩素酸ナトリウム液に5-10分浸漬した後、通常通り洗浄します。 | 食器の傷み |
| 衣服・リネン類 | 85℃1分以上の熱水洗濯 または次亜塩素酸ナトリウム液に10分間浸漬します。 通常糞便等では0.02%（200 ppm）程度で十分ですが、下痢便・嘔吐物ではノロウイルスも考慮し、0.1%（1,000 ppm）を使用します。その後、洗濯します。 | 衣服の傷み、漂白。 ノロウイルス胃腸炎を疑う場合には、下着等は廃棄するののも一つの方法です。 |
| 布団・マットレス・枕など | 袋に密閉して安全な場所に運びます。 残念ながら消毒については、最適な方法がありません。 廃棄以外に提案できる可能性としては、以下があります。 1. 布団等の洗濯を引き受ける業者に委託する。 2. 入居者の出入りしない屋外で数日干して乾燥させた後、スチームアイロンや布団乾燥機で処理する。 3. あらかじめ、表面が防水加工されたマットレスなどを導入しておく。 | 現在のところ、これらの物品にノロウイルスが付着した場合とその処理に関するエビデンスおよび有効事例の報告が不足しています。 |
| テーブル・手すり・ドアノブなど表面が拭き取れるもの | 中性洗剤を含んだペーパー等で汚染物を拭き取った後、0.1%（1000 ppm）次亜塩素酸ナトリウムを含んだペーパー等で2回拭き消毒し、最後に軽く水拭きをします。 | |
| 靴 | 中性洗剤を含んだペーパー等で汚染物を拭き取った後、0.1%（1,000 ppm）次亜塩素酸ナトリウムを含んだペーパー等で2回拭き消毒し、最後に軽く水拭きをします。 入居者用の布製の上履きの場合、次亜塩素酸ナトリウム液に10分程浸すのも方法の一つです。 | 漂白のおそれ 革靴は消毒できないので、よく拭き取る以外の良い方法がありません。 |

| | | |
|----------------|--|---|
| <p>じゅうたんなど</p> | <p>上記の布団等に準じます。洗濯できる程度の大きさであれば、リネン同様熱水消毒も有効です。通常の糞尿であれば、排泄物等をペーパー等で大まかに取り除いた後、カーペット用の洗剤でよく拭き取ります。可能であれば、仕上げにアルコール消毒薬を汚染部位にしみこませます。</p> <p>ノロウイルスを考慮する場合、漂白されて良いものであれば、ペーパー等で排泄物を拭き取った後、汚染個所に0.1%（1,000 ppm）の次亜塩素酸ナトリウムをしみこませ、15分後に乾いたペーパー等で吸い取った後、水拭きします。漂白できないものは、汚染部位に熱湯をかけた後に洗剤で拭き掃除する方法も有効と考えられます、熱傷の危険性があるため（特に入居者の安全も含めて）十分な注意が必要です。</p> | <p>左の次亜塩素酸ナトリウムを用いる方法は、かなり臭気を伴うため、換気しながら注意して行い、可能であればじゅうたんなどを取り外して浴室等で実施しましょう。</p> |
| <p>車いす</p> | <p>拭ける部位：中性洗剤を含んだペーパー等で排泄物を拭き取った後、0.1%（1,000 ppm）の次亜塩素酸ナトリウムを含んだペーパー等で2回拭き消毒し、最後に軽く水拭きします。</p> <p>布製など拭けない場合（通常糞尿の場合）：排泄物等をペーパー等で大まかに取り除いた後、カーペット用の洗剤でよく拭き取ります。その後、アルコール消毒薬を汚染部位にしみこませます。</p> <p>布製など拭けない場合（ノロウイルスを考慮する場合）：漂白されて良いものであれば、ペーパー等で排泄物を拭き取った後、汚染個所に0.1%（1,000 ppm）の次亜塩素酸ナトリウムをしみこませ、15分後に乾いたペーパー等で吸い取った後、水拭きします。漂白できないものは、汚染部位に熱湯をかけた後に洗剤で拭き掃除する方法も有効と考えられますが、熱傷の危険性があるため（特に入居者の安全も含めて）十分な注意が必要です。</p> <p>タイヤ：中性洗剤を含んだペーパー等で排泄物を拭き取った後、0.1%（1,000 ppm）の次亜塩素酸ナトリウムを含んだペーパー等で2回拭き消毒します。</p> <p>※車いすで嘔吐し、ノロウイルス胃腸炎を考慮する時には、汚染範囲が不明であるので、持ち手・タイヤを含んだ車いす全体を処理することが望ましいです。</p> | <p>漂白のおそれ</p> <p>特に高齢者施設では、布やスポンジ製を多用した車いすの使用が多いため、消毒処理がしにくいのが現状です。ノロウイルス胃腸炎のケースを除けば、個人用の車いすの場合、それほど消毒を徹底に行う必要はないでしょう。ノロウイルスを考慮する場合も、中性洗剤で排泄物を拭き取った後、半月～1か月程度、代わりの車いすを使ってもらい、汚染された車いすを放置してウイルスの減少を待つ、という選択肢もあります。</p> |

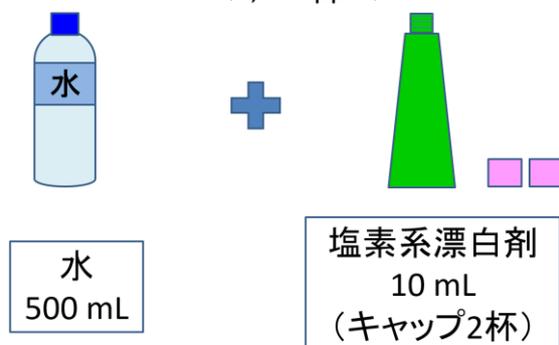
市販の塩素系漂白剤を利用した
次亜塩素酸ナトリウム液の作り方
0.02% (200 ppm)



市販の塩素系漂白剤を利用した
次亜塩素酸ナトリウム液の作り方
0.05% (500 ppm)



市販の塩素系漂白剤を利用した
次亜塩素酸ナトリウム液の作り方
0.1% (1,000 ppm)



※この手順書は、国立研究開発法人 日本医療研究開発機構（AMED）の研究助成を受けて作成したものです。

採択年度：2018年度 事業名：長寿・障害総合研究事業 研究期間：2018年4月—2021年3月

課題名：長期滞在型高齢者福祉施設における効率的な感染対策プログラムの開発 研究代表者：笹原鉄平（自治医科大学）